

# 5. 観光先進国のショーケース化

## ②東京

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	
ユニバーサルデザイン2020		<ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年2月、「ユニバーサルデザイン2020関係府省等連絡会議」を設置</li> <li>・ユニバーサルデザインの街づくりや心のバリアフリーに関する検討を行い「ユニバーサルデザイン2020」を取りまとめ</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ユニバーサルデザイン2020」の実行(取りまとめと並行して実行開始)</li> </ul>	<p>中間評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中間年における取組内容の見直し</li> <li>・ショーケースとしてのプロモーションを検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進捗状況の確認</li> <li>・ショーケースとしてのプロモーションを実施</li> </ul>	東京大会
公共交通機関等におけるバリアフリー化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリ・パラに向けたバリアフリー化調査→2015年度末に取りまとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2015年度のバリアフリー化調査の結果等を踏まえ、空港からのアクセスルート、競技会場やその周辺等における面的・一体的なバリアフリー化の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、空港からのアクセスルート、競技会場やその周辺等のバリアフリー化を推進するとともに、バリアフリー法の整備目標の着実な達成を目指すことで、利用者の9割以上をカバーする旅客施設において全ての方がバリアフリー化された公共交通施設を利用できるようにする。</li> </ul>				
心のバリアフリー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通事業者の職員教育を通じた接遇の向上→「バリアフリー教室」の着実な開催等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般国民に対する普及・啓発活動→副教材や、当事者参画によるセミナー・キャンペーン等を開催し、国民的運動の気運を醸成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルデザイン2020の心のバリアフリー分科会等において、事業者等への働きかけや国民全体に向けた取組について検討し、並行して実行開始。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心のバリアフリーに関する国民的運動の展開→国民的運動を推進し、高齢者・障害者等に対して市民が手助けする文化を醸成</li> </ul>			
分かりやすい案内情報提供の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルサイネージによる使用言語等の属性に応じた情報提供機能の拡大の検討</li> <li>・案内表示の統一化、ピクトグラムの新規作成等に向けた調査→オリパラに向けたピクトグラムのあり方について交通エコモ財団による検討会に参画</li> <li>・屋内外の電子地図等の整備・活用の促進に向けた先行的な実証実験の実施</li> <li>・オープンデータサイトの開設等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の属性(言語等)に応じた情報提供を実現するための共通基盤の機能検証等を実施</li> <li>・作成したピクトグラムのJIS化に向けた調整</li> <li>・情報提供設備の調査</li> <li>・大会関連施設や周辺地域における実証、試行的なオープンデータ環境の整備等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートフォンや交通系ICカード、デジタルサイネージ等と共通クラウド基盤を活用・連携し、言語等の個人の属性に応じた情報提供等の検証・相互接続の実現</li> <li>・2015年度、2016年度の調査結果等を踏まえ、ピクトグラムやデジタルサイネージを活用した新しい案内表示の導入支援</li> <li>・バリアフリールート等の情報提供の充実</li> <li>・ICTオープンデータプラットフォームの構築</li> <li>・各省施策の連携によるプレサービスの実現</li> </ul>	<p>中間評価を踏まえた改善とプロモーション</p>			



	2015年度～2016年度		2017年度			2018年度	2019年度	2020年度	KPI	
			概算要求 税制改正要望等	秋	年末	通常国会				
観光立国のショーケース化(②東京)【改革2020】	<p>&lt;ユニバーサルデザイン2020&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ユニバーサルデザイン2020関係府省等連絡会議」を設置(2016年2月)</li> <li>「ユニバーサルデザイン2020関係関係会議」に格上げ(2016年2月)</li> <li>ユニバーサルデザインの街づくりや心のバリアフリーに関する検討を行い「ユニバーサルデザイン2020行動計画」を取りまとめ</li> </ul>		「ユニバーサルデザイン2020行動計画」の実行(取りまとめと並行して実行開始)							<ul style="list-style-type: none"> <li>訪日外国人旅行者数を2020年に4,000万人、2030年に6,000万人とすることを目指す。</li> <li>訪日外国人旅行消費額を2020年に8兆円、2030年に15兆円とすることを目指す。</li> <li>地方部での外国人延べ宿泊者数を2020年に7,000万人泊、2030年に1億3,000万人泊とすることを目指す。</li> <li>外国人リピーター数を2020年に2,400万人、2030年に3,600万人とすることを目指す。</li> <li>日本人国内旅行消費額を2020年に21兆円、2030年に22兆円とすることを目指す。</li> </ul>
	ショーケースとしての取組主体及び場所・内容の決定		進捗状況の確認			<ul style="list-style-type: none"> <li>中間年における取組内容の見直し</li> <li>ショーケースとしてのプロモーションを検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進捗状況の確認</li> <li>ショーケースとしてのプロモーションを実施</li> </ul>			
	<p>&lt;公共交通機関等におけるバリアフリー化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オリ・パラに向けたバリアフリー化調査→2015年度末に取りまとめ</li> <li>2015年度のバリアフリー化調査の結果等を踏まえ、空港からのアクセスルート、競技会場やその周辺等における面的・一体的なバリアフリー化の推進</li> </ul>		引き続き、空港からのアクセスルート、競技会場やその周辺等のバリアフリー化を推進するとともに、バリアフリー法の整備目標の着実な達成を目指すことで、利用者の9割以上をカバーする旅客施設において全ての方がバリアフリー化された公共交通施設を利用できるようにする							
	<p>&lt;心のバリアフリー&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通事業者の職員教育を通じた接遇の向上→「バリアフリー教室」の着実な開催等</li> <li>一般国民に対する普及・啓発活動→副教材や、当事者参画によるセミナー・キャンペーン等を開催し、国民的運動の気運を醸成する</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>ユニバーサルデザイン2020に基づき、心のバリアフリーについて、副教材や当事者参画によるセミナー・キャンペーン等を開催し、国民的運動の気運を醸成</li> <li>交通・観光分野における接遇の向上(接遇ガイドライン等の作成)と職員研修の充実</li> </ul>			心のバリアフリーに関する国民的運動の展開→国民的運動を推進し、高齢者・障害者等に対して市民が手助けする文化を醸成				
	<p>&lt;分かりやすい案内情報提供の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルサイネージによる使用言語等の属性に応じた情報提供機能の拡大の検討</li> <li>個人の属性(言語等)に応じた情報提供を実現するための共通クラウド基盤の機能や仕組みを検証</li> </ul>		共通クラウド基盤の機能の高度化及び社会実装に必要な仕組みやルールの検討・社会実装に向けた取組の推進				中間評価を踏まえた改善とプロモーション			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>案内表示の統一化、ピクトグラムの新規作成等に向けた調査→オリ・パラに向けたピクトグラムの在り方について交通エコモ財団による検討会に参画</li> <li>作成したピクトグラムのJIS化に向けた調整</li> <li>情報提供設備の調査</li> </ul>		2015年度、2016年度の調査結果等を踏まえ、ピクトグラムやデジタルサイネージを活用した新しい案内表示の導入支援							
<ul style="list-style-type: none"> <li>屋内外の電子地図等の整備・活用の促進に向けた先行的な実証実験の実施</li> <li>オープンデータサイトの開設</li> <li>大会関連施設や周辺地域における実証、試行的なオープンデータ環境の整備等</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>バリアフリールート等の情報提供の充実</li> <li>ICTオープンデータプラットフォームの構築</li> <li>各省施策の連携によるプレサービスの実現</li> </ul>								

東京大会

# 中短期工程表「観光・スポーツ・文化芸術」⑳

	2015年度～2016年度		2017年度			2018年度	2019年度	2020年度	KPI	
			概算要求 税制改正要望等	秋	年末	通常国会				
観光立国のショーケース化③成田空港・羽田空港【改革2020】	<b>&lt;省庁連絡協議会の設置&gt;</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>協議会の設置</li> <li>海外の事例を収集</li> <li>おもてなしを検討</li> <li>設置主体及び場所・内容の決定</li> </ul>		進捗状況の確認			中間取組評価 ・中間年における取組内容の見直し ・実装箇所におけるヒアリング	進捗状況の確認 ・ショーケースとしてのプロモーションを実施		・訪日外国人旅行者数を2020年に4,000万人、2030年に6,000万人とすることを目指す。  ・訪日外国人旅行消費額を2020年に8兆円、2030年に15兆円とすることを目指す。  ・地方部での外国人延べ宿泊者数を2020年に7,000万人泊、2030年に1億3,000万人泊とすることを目指す。  ・外国人リピーター数を2020年に2,400万人、2030年に3,600万人とすることを目指す。  ・日本人国内旅行消費額を2020年に21兆円、2030年に22兆円とすることを目指す。	
	<b>&lt;ストレスフリー等の取組(無線LAN、多言語対応)&gt;</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>無料公衆無線LAN環境の整備促進等</li> <li>多言語音声翻訳の研究開発等を実施</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用した訪日外国人旅行者拡大に向けた環境整備の促進</li> <li>成田空港におけるバリアフリー情報等提供の実証実験実施</li> <li>無料公衆無線LANの整備促進及び周知広報</li> <li>多言語音声翻訳技術の研究開発・社会実証を通じた社会実装</li> </ul>							
	<b>&lt;空港アクセスの改善(鉄道・バス)&gt;</b> 東京圏における今後の都市鉄道の在り方について交通政策審議会で審議・答申(2014年5月～2016年4月)		空港アクセス関連駅におけるバリアフリー化等を推進							
	<ul style="list-style-type: none"> <li>国家戦略特区における空港アクセスバス事業の推進(運賃の柔軟な設定等)、深夜早期時間帯におけるバスアクセスの利便性向上等を通じたバスアクセスの更なる充実</li> <li>深夜早期時間帯の利便性向上等の空港アクセスバスの更なる改善</li> </ul>						中間評価を踏まえた改善とプロモーション			
	<b>&lt;空港をゲートウェイとしたコンテンツの発信(デジタルサイネージ・ロボット・世界最先端のトイレ)&gt;</b> ○デジタルサイネージの普及		<ul style="list-style-type: none"> <li>標準仕様を策定</li> <li>個人の属性(言語等)に応じた情報提供を実現するための共通クラウド基盤の機能や仕組みを検証</li> </ul>			共通クラウド基盤の機能の高度化及び社会実装に必要な仕組みやルールの検討・社会実装に向けた取組の推進				
	○世界最先端のトイレ <ul style="list-style-type: none"> <li>トイレの質の向上の検討</li> <li>トイレ等の環境整備・利用の在り方に関する調査の実施</li> </ul>		トイレの使用方法・マナー向上等の啓発活動実施							
	○ロボットの活用 実証事業の実施		実証事業の実施			実装	ロボットの随時活用			
	ルールの検討		PDCAを回しルールを改訂							

※同様の取組を成田空港・羽田空港以外の地方の空港に波及させる。